

# AiGG

ほっかいどう

197

〔ほっかいどう 愛護〕発行／2023年 10月 発行所／札幌市中央区北2条西7丁目かでのる2・7 4F TEL. (011) 271-0228  
発行者／北海道知的障がい福祉協会 会長 大垣 勲男



空知ソフトボール大会

## 2023.10 CONTENTS

- 2P. 令和5年度愛護福祉賞 寺尾孝士氏受賞
- 3P. 令和5年度北海道知的障がい福祉協会会長表彰
- 4P. 研修報告 北海道知的障がい関係支援員研修
- 5P. 研修報告 施設長・管理者 権利擁護特別研修
- 6P. 人気No.1うちのメニュー!
- 7P. ご長寿バンザイ
- 8P. 本の紹介  
手しごと探検隊!「デイセンターばんせい」

# 日本知的障害者福祉協会愛護福祉賞 寺尾孝士様受賞！

毎年度一名のみが受賞する日本知的障害者福祉協会「愛護福祉賞」を、ハローENJOY札幌Ⅱ施設長の寺尾孝士氏が受賞されました。

寺尾氏は、社会福祉法人侑愛会星が丘寮勤務時代から自閉症の研究調査をライフワークとし、自閉症研究や調査の先駆者として、数多くの論文・学会発表等を行ない、自閉症児者支援現場での実践に大きな道標を与えました。また、福祉人材の育成に熱心に取り組み、長期に渡り日本知的障害者福祉協会の人材育成・研修委員長や大学、専門学校での講演を積極的に行うなど、育成分野でも大きな功績を残しています。北海道知的障がい福祉協会副会長及び日本知的障害者福祉協会理事役員等を歴任され知的障がい福祉の向上に寄与されました。

7月13日、全国知的障害関係施設長会議会場（東京国際フォーラム）において司会の方から名前を呼ばれた寺尾氏は、スリムな身体にシックなスーツを着こなし、肅々とした表情でステージの中央に進まれ、日本知的障害者福祉協会井上会長から表彰状を受け取りました。受賞謝辞ではカンペなしで一切淀みなく堂々と（実はちょっと飛ばした、とのこと）、協会をはじめ皆様への感謝の言葉を述べられていました。

寺尾氏の「2升飲めた酒が1升しか飲めなくなった」は多くの方が耳にされたことがある決め台詞ですが、日本酒をこよなく愛する寺尾氏を囲み、当日は「日本酒全種類飲み放題」が売りの日比谷の日本料理店で祝賀会を催しました。北海道からの会議参加者24名にお集まりいただき、皆様からは寺尾氏のご功績への感謝とお祝いの言葉が寄せられ、和気藹々と楽しい宴となりました。

（中川博之）



# 令和5年度北海道知的障がい福祉協会会長表彰

令和5年6月29日、北海道知的障がい福祉協会会長表彰表彰式が行われ、受賞者を代表して日向透様から謝辞をいただきました。

## 【総合活動者】

黒田 春男様（札幌三和福祉会）	児島 美和様（札幌親会）
熊谷 智恵様（北ひろしま福祉会）	坪内 裕司様（古平福祉会）
山本 和弘様（北海道社会福祉事業団）	高城 英人様（伊達コスモス21）
齊川 吉清様（鷹栖共生会）	

## 【支援功労者】

富田 栄子様（札幌報恩学園施設長）  
 和島 武宏様（侑愛会参与・新生園元施設長）  
 上埜 二郎様（あぶた福祉会常務理事・清水友愛の里施設長）  
 寺島 とし江様（伊達コスモス21グループホーム世話人）  
 日向 透様（新生会常務理事・希望学園・第二希望学園施設長）



本日、会長表彰をいただきました「総合活動者」8名。「支援功労者」5名を代表しまして、ひとことお礼の言葉を申し上げます。

私は、これまで協会の役員として、たくさんの方に会長表彰をお渡ししてきましたが、本日も「総合活動者」の方たちが誇らしげに表彰をお受けしている姿を拝見して、とてもうれしくなりました。

そして、この表彰が「一番ふさわしくないのが私である」ということを理解しているのが、当の本人のわたくしであります。若いころは、凝り固まった障害福祉の概念とねじ曲がった使命感しかなかったこの私が、これまでこの仕事を続けてくることができたのは、優しく見守っていただいた利用者さんと、寛大なお心のご家族の皆さん、加えてたくさんの方の仲間がいてくださったおかげと思っています。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

また、今のお若い職員さんたちの方が、私より数段高い志を抱いて仕事に従事していることも明白な事実であります。

そして、こちらにおられる、総合活動者の皆さんだけでなく、多くの利用者みなさんに表彰状を受けていただきたいと思っています。皆さんの前で「どんなもんだい」と誇らしげに胸を張って、たくさんの方から大きな拍手をいただいで欲しいと思っています。

是非、ここにおられる施設事業所を代表する方たちが、多くの利用者みなさんをこの場に送り届けていただきますようお願いいたします。

最後になりますが、利用者さんの更なる「しあわせ」と当協会の益々のご繁栄を心より念じ、簡単ですが被表彰者を代表しましてのお礼のあいさつといたします。

本日はありがとうございます。

令和五年六月二十九日

社会福祉法人新生会 日向透



## 令和5年度北海道知的障がい関係支援員研修を運営して

北海道知的障がい福祉協会支援研究委員会 副委員長 石村 正徳

今年度の研修は、昨今の高齢化問題をもう一度学ぶため、テーマを「高齢知的障がい者の支援を考える」とし、令和5年7月21日、北海道第二水産ビル8階会議室にて開催しました。

講師として、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園参事・研究員の根本昌彦氏、社会福祉法人侑愛会総合施設長・侑愛荘施設長 祐川暢生氏をお招きしました。また鼎談には、お二方のほか社会福祉法人伊達コスモス21 ふみだすⅡ施設長廣澤佐起子氏にご登壇いただきました。

根本氏の講演『高齢知的障がい者の健康観察について』においては、看護師としての視点、知的・発達障がい者の健康に関連した課題を中心に、総体的な注意すべき点をお話いただきました。また、自覚症状による疾病の早期発見は困難であることから、支援者として気づきの重要性について再認識しました。



根本 昌彦氏

祐川氏の講演『高齢期利用者への支援 認知症利用者への支援』では、社会と知的障がい者の高齢化、老化と認知症の基本的な話、所属する侑愛荘での実際の支援に関する話を聞く事が出来ました。現在多くの事業所で直面している喫緊の課題ともいえる内容が多く、今後の支援に対しての指針となる内容でした。

鼎談では、廣澤氏より『生活介護事業所における高齢期利用者支援の対応、現状と課題』について報告を頂きました。事業所の中での高齢期支援における考え方・捉え方の移り変わりや、活動提供の問題、「できない理由を言うのではなく、どうしたらできるか考えよう」といった言葉も非常に心に残りました。出席者から事前に集めた質問に答えていく形で進められ、事業所で抱えるそれぞれの課題に、的確かつメッセージを込めてお答えいただきました。

おわりに、参加して下さった会員事業所の皆さんも、高齢化に対する支援については様々な取り組みをなさっている事と思いますが今回の研修内容が参加して下さった皆様のお役に立てば幸いです。次年度以降も支援研究委員会研修企画部会では支援現場に求められる研修会を企画していきたいと思っております。



## 研修 報告

# 施設長・管理者 権利擁護特別研修

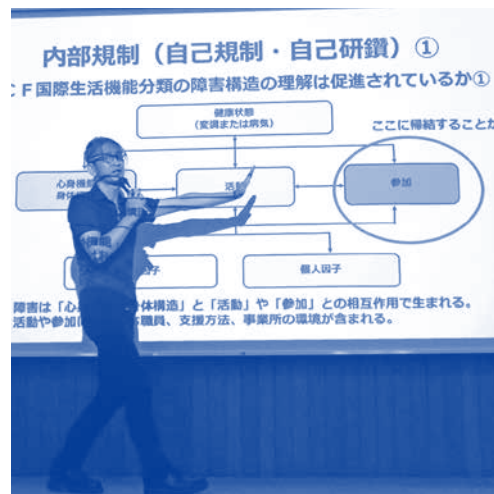
## 講演Ⅰ 「コンプライアンスとガバナンス、組織のリスクマネジメントについて」

公益財団法人日本知的障害者福祉協会 権利擁護委員会副委員長  
社会福祉法人高水福祉会 理事長 野口 直樹 氏

虐待発生の要因は支援スキルや職員のストレス、感情のコントロール、倫理観や理念の欠如が連動している。内部規制（自己規制・自己研鑽）と外部規制（仕組み）の両方を強化することで虐待行為の抑制になる。

コンプライアンスとガバナンスについて、基本は「地域生活」であることが理解できているだろうか。私たちは誰のために仕事をしているのか、職員一人ひとりが利用者の地域生活移行や社会参加等を意識して地域全体で支える仕組みを構築しなければならない。

福祉の仕事は「崇高な仕事」と言われることがあるが職員が崇高とは限らない。管理者は衛生要因や環境要因に目を向けず、精神論や動機づけ要因のみに陥りエビデンスのない非効率で主観的支援をしてはいないだろうか。世間から「大変な仕事ですね」と労われることがあるが本当の意味ではなく、冷やかな目で見られているのかもしれないことを自分の戒めとして日々考えている。



## 講演Ⅱ 「成年後見の取り組みを通じ当事者の権利擁護を考える」

社会福祉法人函館一条 理事長 尾形 永造 氏

**事例 1 30代男性** 施設入所の際に金銭管理と保証人契約の申立てがあり2013年より後見開始。入所している施設から毎月、利用実績記録票が届き確認後、押印をする。1月の利用実績記録票（生活介護）が届いた際に元旦から3日までの利用実績が記載されていた。元旦から日中活動をするのかと疑問を感じ施設に確認したところ、「問題ありません、請求すれば給付が算定されるので」との回答。納得できなかったので振興局に問合せたが「翌年の実地指導にて確認をします」との返答だけでその後、回答がなかった。たかが実績記録票だけのこともかもしれないが、日々の活動から給付費が算定されている。小さな確認の積み重ねが権利擁護や虐待防止に繋がる。

**事例 2 50代女性** 施設入所、自閉症、2015年8月より後見開始審判となる。20～30代のときに当事業所を利用しており、当時は自閉症という判定基準が無く手探りで支援をしていた。保護者が体調を崩し通所が難しく、入所施設の利用となった。入所当時に施設訪問した際、観察していると職員の関わりが少ない様子であった。予定変更にも弱くパニックから他害行為があり、原因をみつけられないまま適切な支援ができなかった。本人の特性や基本的な支援の説明をし、専門機関からのサポートを受けるよう助言した。その情報を職員が共有し、学習して支援に活かす。管理者は先頭に立って現状の課題を見つけ出し職員教育を行ってほしい。彼女の母親は90歳を過ぎており特養で暮らしている。彼女が一人になっても施設で暮らして良かったと思える支援をしてほしいし、後見人としてしっかり取り組んでいきたい。

2021年から地域貢献として法人後見支援室を設置した。地域における公益的事業の位置付けとし、費用は無償または低料金で対応している。当法人に関わる利用者は利益相反になるため対象外としている。2022年3月から養豚事業所に住込みで働く11名の身上監護、金銭管理、生活支援を担当することになった。元従業員から虐待事案があり、週に1回お小遣いを届けることにした。養豚事業所側も外部の人間が入り出すことで不適切な行為の抑制となり現在は落ち着いている。

当法人と近隣の法人で3カ月に一度、オンブズマン会議を実施している。事故報告やヒヤリハットの報告を行い、弁護士、教員退職者などから意見をもらう。グレーな支援について、現状を理解して適切な対応を検討することで支援の質の向上に繋げる。

管理者の在り方として、虐待防止や権利擁護を叫ぶだけでは問題は解決しない。支援者としてどこの行動に起点をおくのか、管理者自らが職員に示す。まずは自分が勤める施設の日課や活動内容を見直してほしい。利用者に可能性があればステップアップを目指し、入所施設、通所施設は経過点であってほしいと願う。

※研修の内容は一部を抜粋して報告をしています。



人気  
ナンバー  
No.1

# うちのメニュー

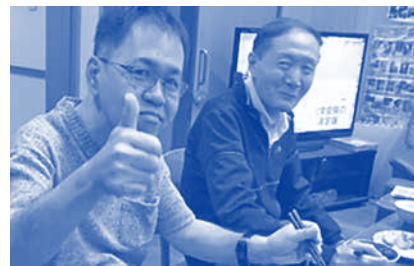
## 「地元食材を使った一押しメニュー！」

社会福祉法人侑愛会 函館青年寮 栄養士 松本由美子

当施設のある函館市は津軽海峡に面し、新鮮で豊富な魚介類を四季を通じて楽しむことができる街です。といいますが、「地球沸騰」といわれた今夏は周辺の海水温が28.5℃にもなって、漁師さんから「季節ごとの魚の行動を掴むのが難しくなっている」と伺いました。魚の住む環境としては、とくに受難が多い海の様です。

さて、この日の献立は地産地消を意識したメニューにしました。近海の鮭、地物野菜、北海道産のメロンといった内容です。冷凍食材もたまには良いのですが、新鮮な旨みにはかないません。彩りの見た目、味付け、食べやすさ、量、価格、手間ひま等を考慮しながら作る献立は難しさもありますが、楽しい時間でもあります。できるかぎり手作りにこだわり、味の広がりがあるように工夫しています。そのなかで、高齢化に伴う食形態の変化、食の拘りが強い方々への対応も非常に多くなっており、勉強と工夫を重ねながらの毎日です。私がどんな献立を作ったとしても、調理員さんたちの協力と奮闘がなければできません。感謝と敬服の思いをもって一緒に取り組んでいます。

課題も多くありますが、食事をする利用者の方々から「美味しかったよ！」と声をかけられるのが、調理員さんと一緒に頑張る励みにもなっています。これからも新しいメニューを考案しつつ、食の質の向上にむけて取り組む日々をワクワクしながら楽しみたいと思っています。



## 「南ふらの発 インドネシア行き!!」

社会福祉法人 南富良野大乗会 障がい者支援施設 南富良野からまつ園  
管理栄養士 今 奈都美

南富良野からまつ園では、利用者の皆様に色々な食材や料理を楽しんでもらえるように、ラーメンやカレーといった人気メニューはもちろん、日本の郷土料理や世界各国のメニューを献立に取り入れています。

今回ご紹介するメニューはインドネシアの伝統的な料理です。現在、当事業所にはインドネシア出身の特定技能実習生が8名在籍しています。そうした縁もあり、本日の昼食はインドネシアの代表的な料理であるミーゴレン（パスタのような焼きそばのような…）、ソトアヤム（イスラム教徒OKのチキンスープ）、ガドガド（サラダソースはピーナッツ!）、トロピカルフルーツ（漂う南国感）が見事に食卓を彩ってくれました。食べたことが無い利用者がほとんどであり、戸惑いを隠せない方もいれば、笑顔で「おいしいわあ〜」と言ってくれる方がいるなど、反応は様々でしたが、用意したはずのおかわりはあっという間に無くなってしまいました。

インドネシア出身のスタッフにとっては、祖国から遠く離れた日本で福祉の仕事頑張っている中で、久しぶりに故郷の料理を前にして感無量の様子でした。また、利用者の皆様をはじめ日本人スタッフにとっても、異文化と触れ合う貴重な経験となりました。今後も“食べる”ということを楽しみながら、ご利用者の皆様と一緒に日本各地、世界中を羽撃け巡りたいと思います。





# ご長寿バンザイ



全道各地のご長寿さんのほっこりな毎日をお届けします。  
うちの「ご長寿さん」を紹介したい!という方、ご応募おまちしています。

## ハウスのことでわからない事は、蓑さんに聞いて!

### 松泉学院

昭和17年5月に喜茂別で生まれた<sup>みの</sup>蓑幸典さん(81歳)をご紹介します。

19歳で当時琴似にあった札幌緑花会に移り、その後銭函へ。「松泉学院」の開設時には仲間と共にご尽力されたそうです。その後、農耕班に所属。主に畑担当。その後ハウスでの野菜、花苗の育成にもたずさわり、ハウスのことでわからない事は蓑さんに聞いて!と言われるほどです。今までの苗の育成の時期などをノートに詳細に記入しており、その実績がかわれ、近くの園芸所に6年ほど就労していました。「ほかの職員と同じ動きをしないといけないし、時間も長く大変だったが、休み時間には、趣味の山菜取りにいく余裕もあった」とお話しされていました。学院での作業がいかに軽度かを知ったそうです。

生活の場をグループホームに移してからは趣味のパークゴルフ大会に数多く参加し、最高は準優勝。平成27年には、ホールインワンを達成。もう一つの趣味は山菜取りで、近くの山はすべて熟知しています。キノコの穴場はシークレット!とのことですが、とってきた山菜や秋には栗なども職員にもおすそ分けしてくれます。カラオケも大変上手で大会にも数多く参加し、鳥羽一郎「兄弟船」が得意の一曲です。パークゴルフは今も現役。今年の山菜の時期は熊出没で出入り禁止となりましたが、現在も日中作業所に通い、折箱、散歩等を楽しんでいる蓑さん。いつまでも蓑さんの癒しパワーが続くことを願っています。



## 数えで米寿を迎えました

### なんぼろ恵

昭和63年に開設した障がい者支援施設なんぼろ恵に、開設当初から在籍している小林俊男さん(87歳)についてご紹介します。

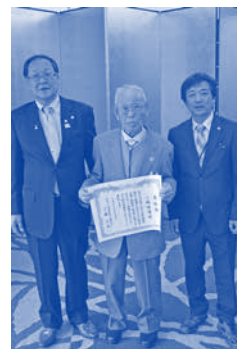
施設に入所する前は、札幌市内の木材会社に住み込みで働き、休みの日は趣味のパチンコをしたり、お酒を飲みに行くことも多くありました。

入所してからは町内の工場に通って実習を重ねた後、生活介護での日中活動の取り組みとして、業者から委託された箱の組み立てなどの作業を、いつも正確、丁寧、スピーディーにこなしてくれたおかげで効率が上がり、本人の果たした役割はとても大きいものでありました。

真面目で責任感が強く、施設内の自治会長を務めたり、施設内外や町内のイベントなど様々な活動に参加してきました。特に身体を動かすことが好きで、パークゴルフ大会などスポーツに係る大会には積極的に参加され、過去には何度も入賞を果たしており、大きな功績を残しました。

このように永年にわたって一般就労や日中活動に従事すると共に社会活動に積極的に参加されてきたことで、平成29年に北海道知的障がい福祉協会より表彰を受けています。

現在は87歳と高齢であるため、普段は居室内でスポーツ番組やスポーツ新聞をみてゆっくりと過ごしています。2年前には高齢者旅行として南幌温泉にて理事長や他の利用者の方と共に食事や温泉を楽しみました。現在はあまり飲めなくなりましたが、時折お酒を楽しむ時間を持ちながら、元気にお過ごしになっています。





# 本の紹介

すごい言語化  
「伝わる言葉」が一瞬で  
みつかる方法

出版社：ダイヤモンド社  
ISBN-13：978-4478117835



言葉は口から出て音になれば終わりではない。脳内に浮かんだ言葉を書き出したら終わりでもない。伝わらなければ、ただのノイズや紙クズと一緒にある。

この本を読んでいたら、こんなエピソードを思い出した。とあるプロ野球の監督がスランプの選手に「スーッと来た球をガーンと打つ」とアドバイスした話。往年の野球ファンなら誰の事かわかりでしょう。これと同様のことを上司から言われ、のちに「何故、結果を出せない!」と叱責されたら、う〜ん、どうでしょ〜? 私は即FA宣言です。今年は野球が盛り上がっているのを話したいのですが、本のタイトルにある『言語化』の話をししましょう。冒頭に『ただのノイズや紙クズと一緒に』と書いたので、このコーナーも紙クズにされな

いように書こうと思う。

バブル時代を経た先輩たちが使う、俗に言う『#おっさんビジネス用語』は、言語化されていない良い例と思う。『ガラガラポン』『エイヤ』『全員野球で…』『よしなに』など、書いている私もおじさんが使った事がない。否、嘘。『全員野球』は使っちゃ。これらの言葉は互いが空気感を一致させ「わかるでしょ?」という強引さがある。世代間ギャップなどを考えると使用する危険度は高い。このように具体的な例示が全くされずに言った側が「伝わったよね?」では、仕事を進める側も混乱してしまう。ましてや最近の若年層に見られる、「指示待ち人間」と呼ばれる人たちに『よしなに…』では、何も進まない。昭和上司VS令和部下の戦いを遠巻きに見ている分には楽しそうだが、不毛な戦いなので、役職・年齢等に関係なく「共通言語」を持つことが「言語化」なのだろうと思う。

昭和側の偉くないおじさんとしても、この本を読んでキチンと言語化して伝えられるようにしなければならないと考える。

ここに出てくる『#おっさんビジネス用語』の説明は文字数の都合上、致しません。野球大好きおじさんは、この辺で『ドロン』します。

(K)



## 手しごと探検隊!

### デイセンターばんせい 「ソーセージ、ハム、ベーコン」

デイセンターばんせいでは、地元である十勝産の豚肉を使用したソーセージやハム、ベーコンの製造を行っています。平成2年晩成学園食肉加工班としてはじまり、平成26年よりB型事業立ち上げと同時にデイセンターばんせいに移管されました。現在では音更町のふるさと納税の返礼品や道の駅おとふけ等で販売しております。近年では道外の飲食店や個人の方からも注文があり、少しずつ音更晩成園のソーセージとして知名度が広まりつつあることを嬉しく思います。ソーセージやベーコンを通して、利用者さんたちと作る心のこもった味を感じ取って頂けたら幸いです。今後一人でも多くの方に「美味しいソーセージを届けたい」という思いをモットーに心を込めて製造していきたいと思えます。加工品につきましては、ソーセージ(あらびき、ピルカ(行者ニンニク)、辛口、チーズ)の4種類とフランクフルト、バラベーコン、ロースベーコン、ハムを製造しております。全国発送を承っておりますので、注文及び金額等の詳細についてはぜひお問い合わせください。



製造元:社会福祉法人音更晩成園 デイセンターばんせい  
問合せ先:電話0155-42-8989 FAX0155-67-8080  
E-mail day@bansei.or.jp



## 編集会議

突然ですが、皆さんにとっての家庭の味はどんなものがありますか。私は農業を営む家庭に生まれ祖父母、両親、兄、妹と私の7人家族で育ちました。畑は自宅から離れた場所にあり両親と祖父は朝から畑仕事に出ており、私が登校する時間に見送ってくれたのは祖母でした。母親は早朝から食事やお弁当の準備、畑仕事をして帰宅後に洗濯や家事をしていました。当然、食材を買いに行く時間も限られていたので、長期保存が可能な食材や手間を掛けずに食べられるレトルト食品が多くありました。ハンバーグや餃子はレトルト食品が当然であり、中学生ぐらいになり友人宅でご馳走になった手作りのものは大変美味しく、また自宅でも作れると知ったときは大きな衝撃を受けました。カレーライスアルミ製の鍋にパルメーザンカレーの中辛と辛口の2種類をブレンドし、隠し味にとんかつソース、トマトケチャップ、牛乳を隠し切れぬほど入れていました。今となっては二食続けて食べると胸やけを起こしますが、当時は3日間ぐらい食べ続けていたと思います。3日目の朝になると大鍋のカレーも残りわずか。母親が「早く起きないとカレーが無くなるよ!」と言って寝ている私たちを起こすほどでした。野菜には困ることがなく、サラダはもちろん、さつまいもが入った野菜炒め、大量に作ったポテトサラダは1kアイスの空容器にて保存、新鮮野菜の天ぷらなど、採れたてのものをたくさん食べることができましたが、子どもの頃は「肉以外はおかずにならない」と思っていました。さすがに母親もそれに気が付いたのか自宅にある食材で思い付いたメニューが「魚肉ソーセージの天ぷら」です。あの鮮やかなピンク色の食材。それを2~3センチほどの厚さで斜めにカットし衣を付けて揚げただけですが、揚げたてはふわっとした食感で子ども心に絶品だと思っていました。現在も自宅で天ぷらを作るときには、魚肉ソーセージは欠かせません。数年前、同僚と何気ない会話のなかで魚肉ソーセージの天ぷらのことを話してびっくり。私はどの家庭でも食べていると思っていましたが我が家だけの味でした。皆さんにも実は知らない家庭の味がひとつやふたつは有るはず。コロナ禍明けの宴の席でネタになること間違い無しです。

(広報編集委員 成田 彰教)